

島 根

過疎と生きる

●第3部 われら協力隊

〈下〉

カエルの鳴き声に交が強く、貧しくても地じって、天ぶら油のは元が好きだ」という現じける音が響く。美郷地の人々。「日本を見町南西部の比之宮地 つめ直し地域の力を感区。集会所での寄り合じたい」と協力隊に志いの後、住民が開いた 願し、2011年7月「天ぶら会」で、地域に比之宮地区へ移住しおこし協力隊員の小川た。

珠奈さん(25)は山菜を 住民から頼まれる草揚げていた。刈りを引き受けなが
「天ぶら会」は小川ら、地域の寄り合いをさんの提案で昨春から訪ねた。若い世代を探始めた。近所で採ったし、神楽の稽古や授業山菜を持ち 寄った会社員渡利八寿男さん(61)は「前は見向きもせんかったけど、珠奈が『宝じゃ』と箸を進めた。横濱市出身の小川さんは米国の大学に進み、タイやフィリピンを訪ねて貧困問題を学んだ。近所の結び付き

熱意の輪

長所探して地域一つに

「地域に入り込むため、とにかく褒めた。褒めようと意識すれば長所が見える」と小川さん。「ここには何も訪ねて貧困問題を学んだ。近所の結び付き

み交わす場を、農協の事務所跡を改修した協隊の活動拠点に設けた。高齢者ばかりにならぬよう、20代にも必ず声を掛ける。「地域の20年後をつくるの返る。

「前に出るのが苦手で、地域の活動から一歩下がっていたけれど、寂れるばかりの集落が変わる気がしてきたんよ」。2年かけてまいった種が、芽を出そうとしている。

「地域に入り込むため、とにかく褒めた。褒めようと意識すれば長所が見える」と小川さん。「ここには何も訪ねて貧困問題を学んだ。近所の結び付き

「地域に入り込むため、とにかく褒めた。褒めようと意識すれば長所が見える」と小川さん。「ここには何も訪ねて貧困問題を学んだ。近所の結び付き

「地域に入り込むため、とにかく褒めた。褒めようと意識すれば長所が見える」と小川さん。「ここには何も訪ねて貧困問題を学んだ。近所の結び付き

「楽天的な性格」

昨年4月から毎週一回、住民同士が酒を酌

昨年4月から毎週一回、住民同士が酒を酌

昨年4月から毎週一回、住民同士が酒を酌



竪穴住居の前で天ぶらを揚げる小川さん(右端) (5月25日)

域から頼まれ、着任したばかりの隊員に体験を話した。町企画課の吉田敦・地域おこしコーディネーターは「やりたいことと地域が求めることのギャップに悩む隊員が多い。小川さんは積極的にコミュニケーションを取って乗り越えた」とする。

信用高める策も

前向きな姿勢は、地域を変えつつある。住民有志は昨年9月、民泊を訪れる広島市安佐南区の児童を「よそにない方法でもてなそう」と、集会所前の広場に竪穴住居を作った。高級淡水魚ホンモロコの養殖も計画。地域おこしのために対外的な信用を高めようとNPO法人の設立準備も進む。

竪穴住居の建設に力

昨年4月から毎週一回、住民同士が酒を酌

(黒田健太郎)